

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース

“黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)
〒271-0092 松戸市松戸 1834- 5 小川ビル 2 階
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546
E-mail: yellowhandkerchief1834@gmail.com

3 月 11 日で東日本大震災発災から 7 年目を迎えます。しかし、今もなお、全国で約 12 万 7 千人、千葉県で 3,039 人がふるさとを離れての避難を余儀なくされています(復興庁/2017 年 1 月末時点)。避難指示の解除が進んでいますが、原発事故による除染作業も進んでいないのが現状です。松戸・東北交流プロジェクトでは、2017 年度の取り組みとして、被災地と被災者の置かれている状況をお伝えしていく活動を進めます。11 日(土)に大うたごえ喫茶 & 7 回忌法要、25 日(土)に黄色いハンカチキャンペーンに、多くの市民・避難者の皆さんお待ちしています。

3.11 東日本大震災被災者支援
松戸佛教会 七回忌法要

大うたごえ喫茶

3月11日(土) 12:30 開演
[開場 12:00]

松戸市民会館 常盤線松戸駅東口徒歩5分

料金
前売 1500円 / 当日 2000円 (全席自由)

東日本大震災・福島原発事故発災 7 年目の 3 月を、被災地と被災者への想いをみなさんと共有する月に!

大震災及びその関連で亡くなられた方のご冥福を祈ると共に、災害で苦勞されている方々を忘れないイベントです。

松戸駅西口デッキで黄色いハンカチキャンペーン実施。松戸の子どもにも被災地の今を知ってもらう企画です。

被災地の未来を描こう 黄色いハンカチキャンペーン

ボランティア募集

黄色いハンカチは、子どもだけでなく、被災者への想いをみなさんと共有する月に!

募集期間: 3月25日(土) 8時~16時 (一部の時間帯もOK、途中抜け可)

募集場所: 松戸市民会館2階

募集内容: お茶のサービス、オープンカフェでのコーヒーの準備など

募集方法: 7回忌法要会場までお越しください。TEL: 047-710-5546 または、お申し込みフォームから申し込みください。TEL: 047-710-5519 までご連絡ください。

黄色いハンカチキャンペーン実行委員会 (代表: 古宮保子)

代表: 古宮保子 (047-710-5519) | 代表: 古宮保子 (047-710-5519)

《住宅問題サポート情報》 (情報を提供して下さった皆様ありがとうございます。)

■引っ越し料金割引プロジェクト

アリさんマークの引越社と避難者の出会いがこの事業の生まれるきっかけとなりました。ご協力で引っ越し料金の割引をしていただけることになりました。すでにお問い合わせが 2 件入っています。お引越しを検討している方は(☎ 0120-722-626 柏支店 店長 広様へ)

■物件情報

市民・支援者から住宅の物件情報を交流サロン黄色いハンカチでの掲示・ホームページ(「黄色いハンカチ 松戸」で検索!)に掲載しています。また、松戸市役所と宅建協会松戸支部のご協力で住宅物件の相談に乗っていただけることになっています。

健康講座③女医さんと語ろう医療についての悩み

2 月 23 日(木)鎌ヶ谷総合病院で医師をしている石丸綾子先生をお招きして医療相談を行いました。先生は、医業の傍らボランティア活動をしているふるさと応援プロジェクトのことを触れ、東北 3 県での活動を写真を使って状況を話されました。最後に、免疫を上げるために万歳をし、背中と足の筋肉を鍛えることの大切さを聴きました。終了後、個別の相談を受けられていました。



自主避難を語り合う会活動記録 代表 佐藤利雄

福島県が行っている住宅支援の無償提供が 3 月末で終わりを迎えています。市営住宅、県営住宅の入居要件を緩和されるが補償は十分ではなくなります。そこで千葉県に対して 3 月末以降も住宅支援について県独自の支援策を求める要望書を避難の共同センターとパルシステム千葉とわかば「お茶っこ」しよう会と黄色いハンカチの 4 団体の皆さんと一緒に 2 月 15 日に提出してきました。「今までと同じが実現する」という良い知らせを支援者・避難者にお伝えしたいと願っています。

避難者体験記

被災者の方に、3.11 の貴重な体験を一人でも多くの皆さんに忘れて知って頂き語り継ぐことで今後も起こりうるであろう大災害に対してどんな心構えができるのか? 自分自身に問いかけて頂けたら幸いです。

連載! 私はその時こうだった
細矢秀雄さん その1
(福島県いわき市)

3号機が爆発したので屋内に避難して下さい。市の広報車が猛スピードで駆け抜けた。私は浄水場の長い列にポリタンクを両手に持って並んでいた。列はくずれする事もなく皆、目線が下を向いていた。水と食料を求めるサバイバルな生活が始まった。

そうあれから6年近くになった...その夏、妻が体調を崩した。3.11 4.11 その後 4.20 義父が突然死んだ。死因がはっきり解らない突然死だった。葬儀もままならない簡素な別れだった。私にとって実父の様な尊敬できるやさしい義父でした。妻の悲しみは計り知れず深い悲しみの中にいた。秋口に「もう死にたい」と妻がつぶやいた。そして生活の苦しみと生きる悲しみを抱えて1年後の3月、今の地、館山に避難しました。

いわき小名浜の気候に良く似ているが、水に慣れるのに時間がかかりました。そして、妻の復活が最大の喜びでした。前職と同じ介護の仕事に復帰し介護福祉士に合格し生きいきとしてきた頃、3月末の制度終了。去年の8月末に市営住宅の入居申請をしました。無理だろうと言われましたが、新聞2紙が取り上げてくれた事が良かったのか...今住んでいます。転居費、入居費は自力で工面しました。言いたいことは山程ありますが、錦の御旗の国策が「安心・安全」と...誰が責任を取ったのですか? 私の自主避難は「安心」を求めている生き様です。そして責任は自己責任です。妻 48才、私 64才。今、館山で生きています。

次号続く

みんなの広場

「気が遠くなる程の時間」

先日、私は松戸市で公園や緑地の放射能測定をなさっている方のボランティア活動に参加した。参加してみて、未だに狭い範囲でのホットスポットが残っているのを目の当たりにした。なにより子供達が遊ぶ場だ。狭過ぎると除染も行われぬ場合も有り、だがそこで土弄りをする子供が居ないとは言い切れない。その場で遊んでいた子供達やお母さん方には放射能が残っている場所を告げてその場を去った。この活動と同じく、福島でも放射能を同じ様に計っている方がいらっしゃる、やはり思わぬ場所、例えば道端にホットスポットが点在しており、その度に除染をお願いしているのだと言う。放射能には半減期があるが、それでもストロンチウム、セシウムは約30年ラジウム、プルトニウム、ウランに関しては何世代に渡っても半減期がやって来るには気が遠くなる程の時間が費やされる。

松戸市民 39才 川村 めぐみ

「笑う門には福来る」

最近では笑いがもたらす健康効果も、脳科学の観点から話題を呼んでいるようです。笑いを生む場所、笑える物、笑いを起こす人、様々な笑いに触れて、ハッピーに過ごしたい。笑いは生きる力になる。免疫力アップ、記憶力、リラクゼーション、美容効果、表情筋が鍛えられシワがなくなる。

市民の女性 78才

避難者の「先の見えない不安」から少しでも気持ちが和らぎ、心が軽くなるように願いながら投稿のコーナーを作りました。日々の暮らし感じた想い不安や不満を本音で書いていただきました。

「自主避難という言葉の意味するもの」

現在、段階的に警戒区域の解除が進んで行く中で新しく自主避難の括りに入れられていくのは事実であるが自主避難という言葉の意味するものとして第一に住宅問題が、上げられる住宅は最後の砦であり雨露凌ぐ生活の基盤でもある。既に経済再建出来、住宅の確保やめどが立っている立場とは大きな格差がある。これから皆自主避難になるから同じなんだと言われても、説明や理解のない場面では逆に当事者を傷つけることにもなる。非常にデリケートな問題でもあり注意しなければならないと思われる。補償は個人に帰することではなく糾弾すべきは加害者責任を認めない国や東電である。皆、被害者でありお互い理解し合うことが大事で支援して下さる皆様には充分理解した上でこの問題に取り組んで頂きたいと願っている。

憂民

「同意の得られない人は検査対象外」 被災地ルポシリーズ4

福島県小児科医会(太神和広会長)は、3巡目が始まった甲状腺検査の在り方を再検討している。1、2巡目で子供の甲状腺がんが145人、その疑いが39人に上がったが約38万人の検査対象者には、これまで全員が検査受診を前提に同意書の提出を求めていた。しかし、3巡目では受診者から同意書を取得する必要があるという案が出ている。これは裏返すと、同意書の得られない人は検査対象外という事になる。これは検査の縮小案と解釈されている。一方県も3巡目の案内で、「お知らせ不要な方のみチェックを入れて下さい」と明記している。福島県立医大はもっとはっきりして、「受診は任意」であり、「検査を受けることに同意しない」を選択した人には、受診の案内を送付しないとある。まだ、5年11ヶ月、更なるデータが必須なのに、それがなくなってしまう。暴挙としか言いようがない。

いわき市 大山昇平

お待たせしました！！

守谷松次先生(グリーンアドバイザー)の「園芸教室」が始まります！

日時 3月29日(水) 13時～

内容 春の園芸相談 剪定と植え替えの基本

当日は皆さんの質問にも優しく答えていただけます。資料も沢山用意してさせていただきます。4月以降は皆さんのご希望をお聞きしてプログラムさせていただきます。

お知らせ

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」3月予定表

日時	内容	講師
7日(火) 13時30分	歌の日 みんなで楽しく歌いましょう。	市民ボランティア 前田洋子さん
8日・22日(水) 13時30分～	初めての囲碁教室 一から教えます！	市民ボランティア 今田靖雄さん
9日(木) 13時30分～	お茶の文化を楽しむ 歴史ある中国茶を楽しみましょう	市民ボランティア 友山邦雄さん
21日(火) 13時30分～	手芸の日 かわいいネコグッズ作り	市民ボランティア 戸丸栄子さん
23日(木) 13時30分～	<健康講座> 歯と口のケアと全身の健康のしくみ	稲富歯科クリニック 稲富洋文先生
28日(火) 13時30分～	自主避難交流会 住宅支援を中心に考えます。	市民の皆さんも一緒に考えましょう。
29日(水) 13時～	春の園芸相談～ 剪定と植え香枝の基本	市民ボランティア 守屋 松次さん
毎週金曜日	相談日(予約制) 法律、仕事、年金など専門家につなぎます。	相談員 古宮保子さん

3月16日(木)は避難者交流会in東京のため、交流サロン黄色いハンカチは終日お休みとさせていただきます。

健康講座～9～

テーマ 全身疾患と歯周病について

3/23(木)

13時30分～

講師 稲富 博文 先生 松戸市秋山で開業

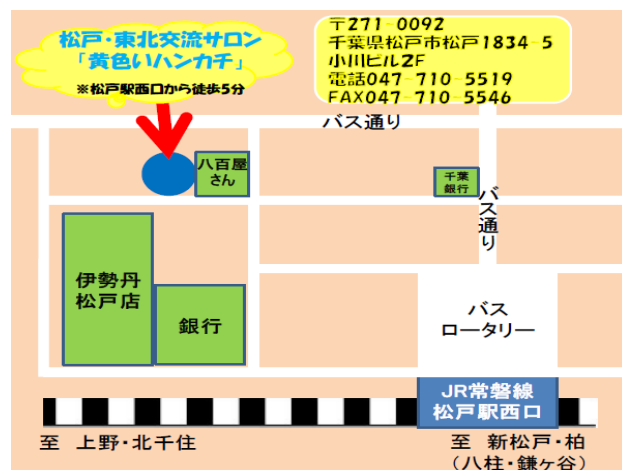
東京医科歯科大学歯周病教室入局以来、歯周病について研究を続けていらっしゃいます。仙台のご出身でもあります。ちば☆はっきりことばエクササイズも体験します(脳や顔の刺激になり表情を豊かに顔が引き締まる効果も期待)

・手作り品販売「マイショップ」の利用料が2017年2月よりレンタル料を無料とし、販売手数料を販売額の2割を頂くことになりました。現在オーナーさんも募集しています。

■アクセスマップ■

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」

松戸駅西口から徒歩5分(八百屋さんの隣のビル2F)



●毎週月～木 10時～16時オープン。
利用は1回100円です。